

2013年3月26日

調査レポート











グラフで見る東海経済 (2013年3月)

【今月の景気判断】

東海経済は、持ち直している。自動車生産の大幅増により、1月の生産は2ヶ月連続で増加し、海外景気の緩やかな回復により輸出も2ヶ月連続で持ち直している。雇用環境は新規求人、有効求人ともに改善している。賃金の減少は続いているが、株高を背景に高額消費が回復基調を続けており、内需に底堅さも見えている。円安により業績が回復する企業も増えており、景気の先行きに対する期待感は引き続き高い。

今後は、世界経済の回復ペースの高まりなどを背景にトヨタグループの4月以降の生産が堅調に推移するほか、2012年度の補正予算における公共投資の増額が見込まれ、景気の下支えとなることが予想される。高水準の自動車生産により所定外給与の増加が見込まれる上、今春闘におけるトヨタグループの定昇維持と一時金の満額回答も消費の追い風になる。消費者マインドも高止まりし、景気は持ち直し傾向を続けるだろう。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗		↗	輸出	↗		↗
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	↗		↗	生産	↗		↗
設備投資	→		↗	雇用	↗		↗
公共投資	↗		↗	賃金	↘		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～米中景気の先行き、世界的な追加金融緩和による株高の持続力、TPP交渉の行方
 - ・企業活動～アベノミクスによる円安・株高の影響、大型の補正予算の執行、中国などアジア向け輸出の動向
 - ・家計～雇用・所得環境改善の広がり、株高が消費に与える影響、円安に伴う食品・エネルギー等の物価上昇
- ～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

エコノミスト 内田俊宏 (chosa-report@murc.jp)

〒460-8621 名古屋市中区錦3丁目20-27

TEL: 052-203-5321

【各項目のヘッドライン】

項目	2月のコメント	3月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しの動き	持ち直している	3~4
2. 生産	持ち直しつつある	増加している	5~7
3. 雇用	持ち直しつつある	持ち直している	7~8
4. 賃金	減少している	減少している	9
5. 個人消費	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	10~11
6. 住宅投資	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	12
7. 設備投資	増加しつつある	増加が一服している	12~13
8. 公共投資	増加している	増加基調で推移	13
9. 輸出入	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	14~15
10. 物価	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい	15
11. 金融	預金は増加、貸出は横ばい	預金は増加、貸出は横ばい	16
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加	16

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料:「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
1. 景気全般

輸出や高額消費、住宅投資の持ち直しに加え、1月の生産が急増し、雇用関連も改善している。

2. 生産

1月の東海3県の鉱工業生産指数は、自動車の増産により前月比+8.8%と大幅に増加した。

3. 雇用

12月の愛知県の常用雇用指数は前年比+1.6%と大幅に上昇。岐阜県(同+0.6%)と三重県(同+1.1%)も上昇した。愛知の新規求人倍率が横ばいのほか有効求人倍率、新規求人倍率は全て改善。

7. 設備投資

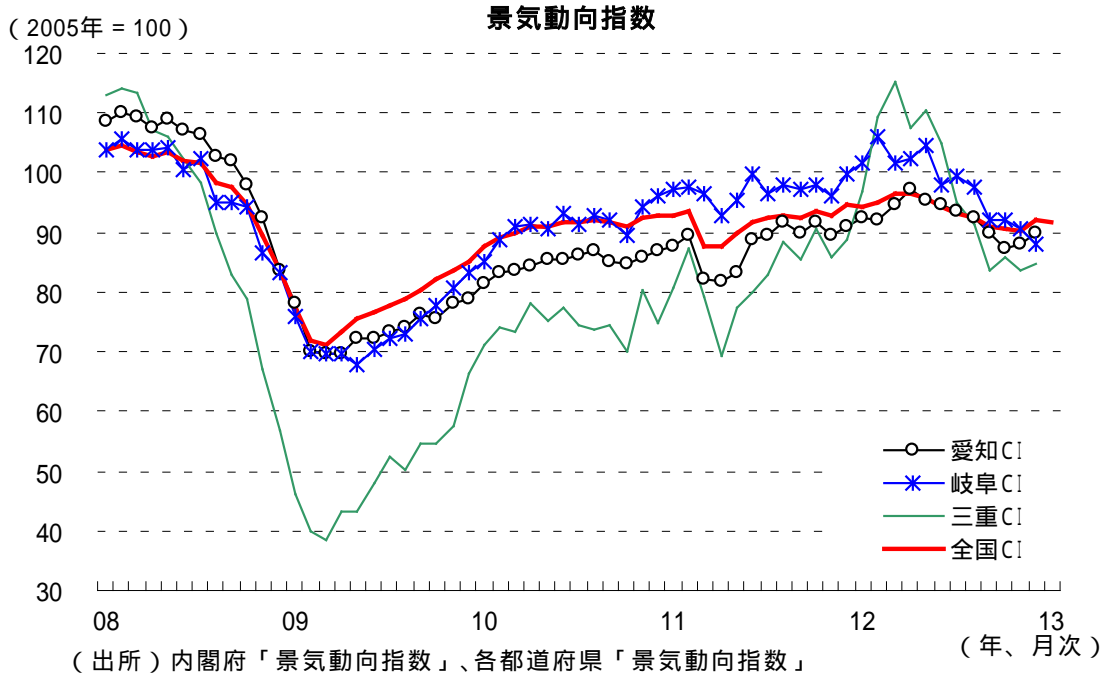
2012年10~12月期の東海4県の製造業の設備投資は、前年比+0.9%と3四半期連続で増加したが、非製造業(ソフトウェアを含む)は前年比-15.6%と減少に転じた。

8. 公共投資

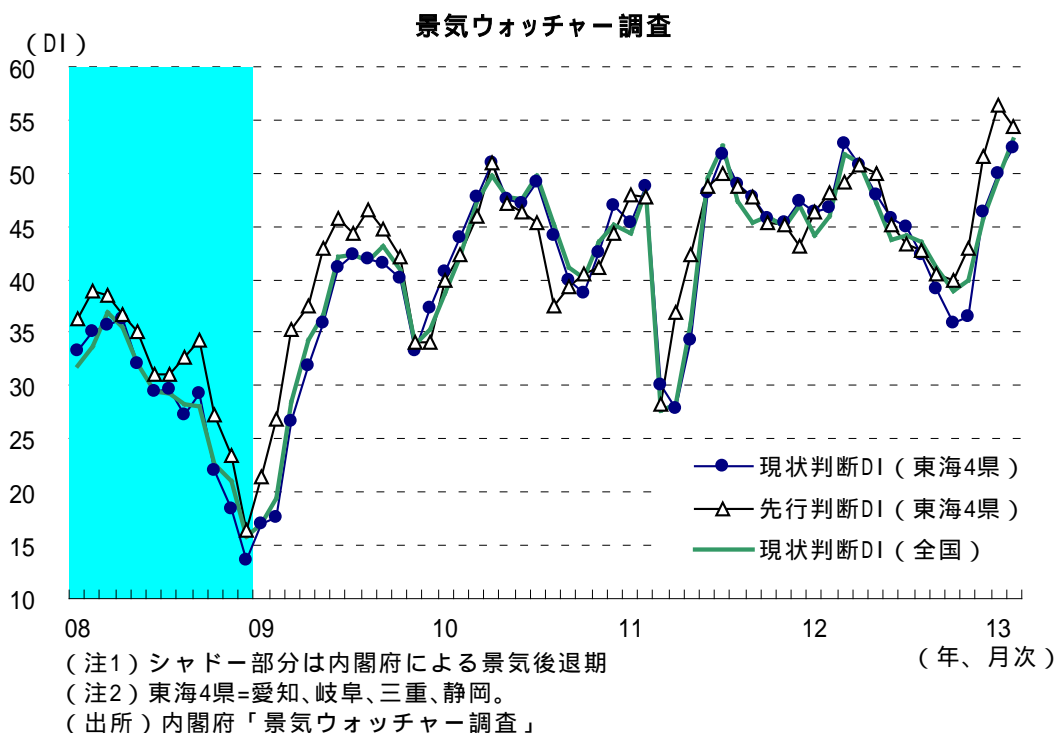
2月の東海3県の公共工事請負額は、前年比-27.5%、季調済前月比-24.4%といずれも減少した。前年同月に急増した反動も影響しているが、公共投資の増加は一服している。

1. 景気全般 ~持ち直している

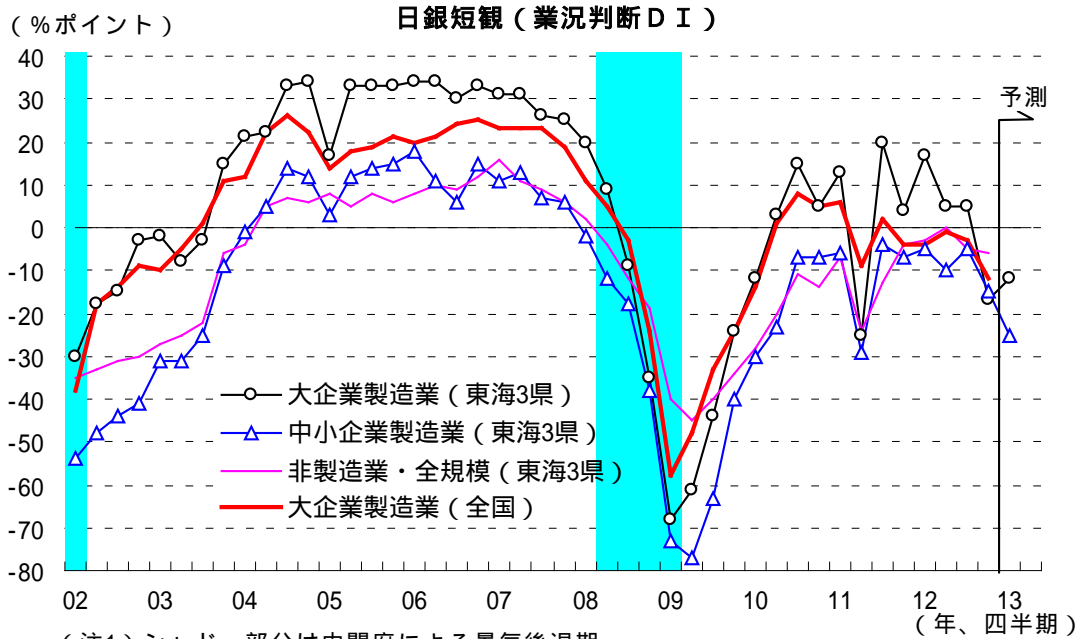
12月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち7系列でプラス寄与となり、2ヶ月連続の上昇となった。三重県も2ヶ月ぶりに上昇に転じた。岐阜県は5ヶ月連続で低下し、先行指数も低下しているが、愛知県と三重県の先行指数は上昇している。



2月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、円安・株高傾向が続いていたことから、足元の景況感を示す現状判断DIは前月差+2.4ポイントと4ヶ月連続で上昇している。家計動向関連の現状判断DIも同+2.9ポイントと3ヶ月連続で上昇した。東海4県の先行判断DIは同-1.9ポイントと4ヶ月ぶりに低下に転じた。

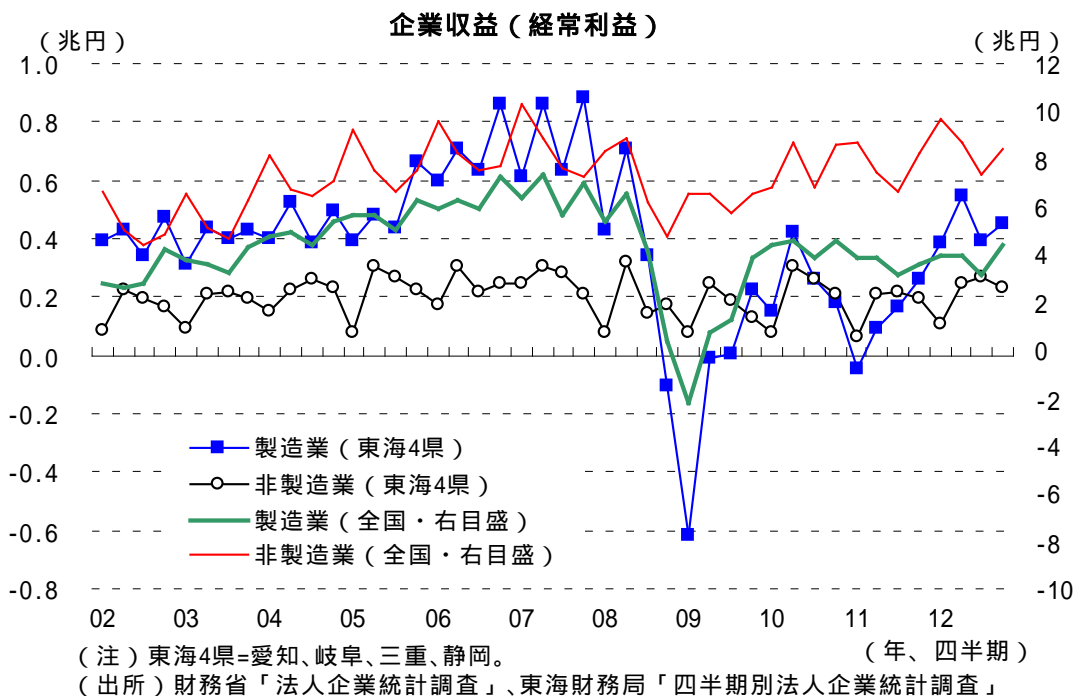


日銀短観 12月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は-17と、前回9月調査から22ポイント悪化した。中小製造業は-15と前回調査から10ポイント悪化した。大企業製造業の業況判断DIの3月予測は-12と5ポイント改善する見通しとなっているが、中小製造業は-25と10ポイントの悪化が見込まれている。



(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期
 (注2) 調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で接続。
 (注3) 東海3県=愛知、岐阜、三重。
 (出所) 日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

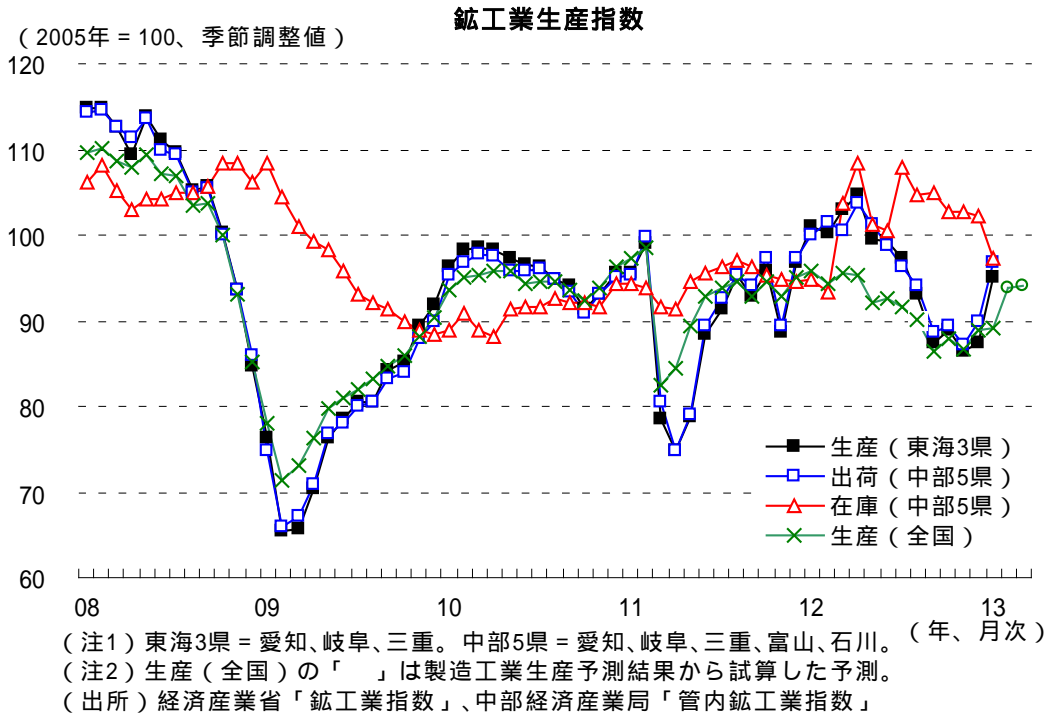
2012年10~12月期の東海4県の企業収益(経常利益、製造業)は増益となり、震災前のピーク(10年4~6月期)の水準を再び上回った。非製造業は前年同期比で増加したが水準は低い。年度下期の業績は、中国経済の減速などが業績の下押し要因となり頭打ちとなるとみられていたが、衆院選前後からの円安・株高により、業績が緩やかな増加基調に転じた可能性が高い。



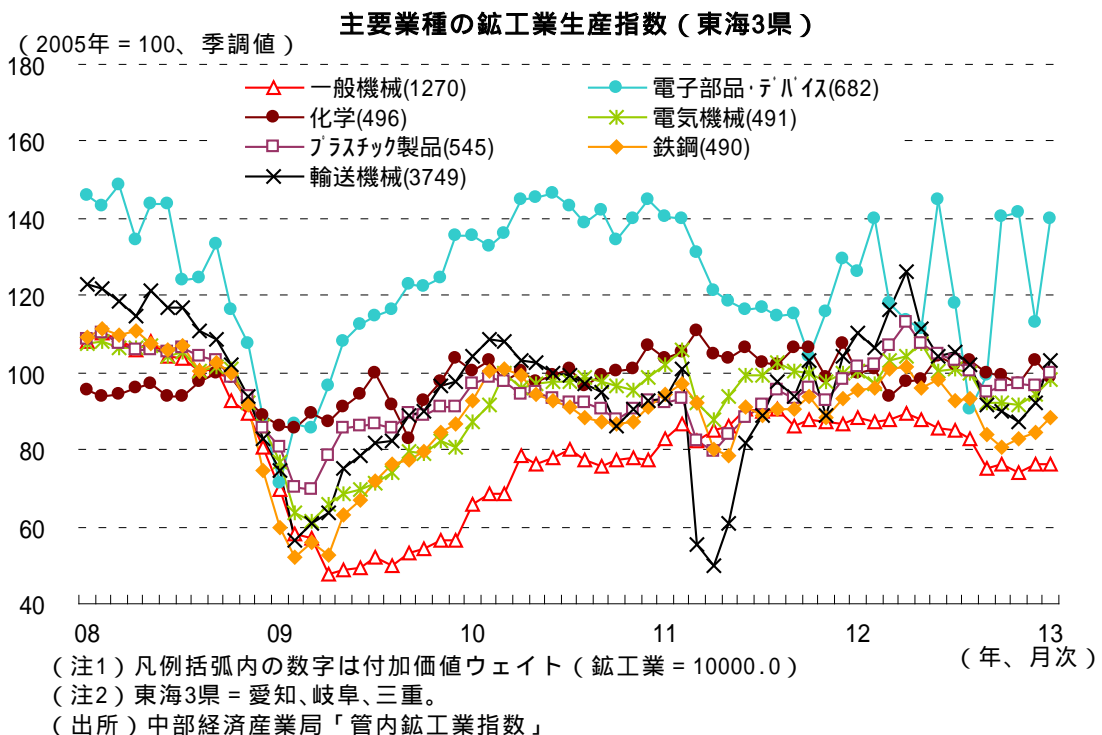
(注) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
 (出所) 財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

2. 生産 ~ 増加している

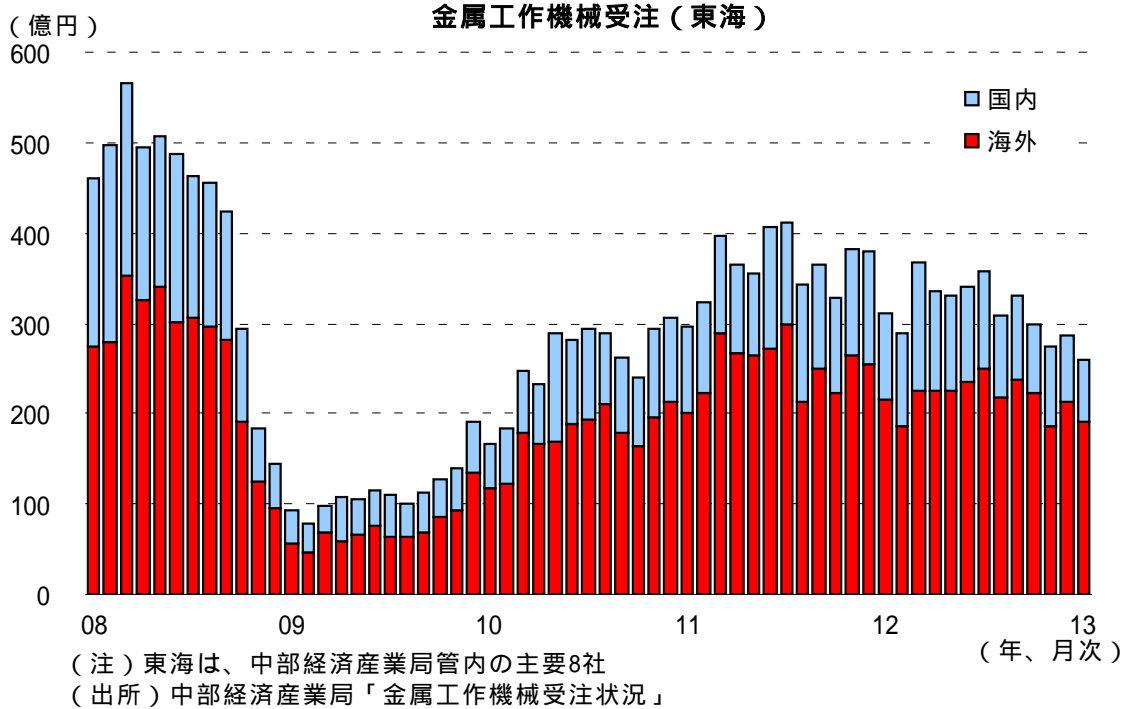
1月の東海3県の鉱工業生産指数は、前月比+8.8%と大幅な伸びとなり、2ヶ月連続で上昇した。自動車部品に加え、完成車生産の拡大により輸送機械が2ヶ月連続で上昇した。先行きは、新車投入効果などで想定を上回る新車販売が続いていることに加えて、米国やアジア向け輸出が堅調なことから、自動車などの輸送機械を中心に増加基調で推移すると見込まれる。



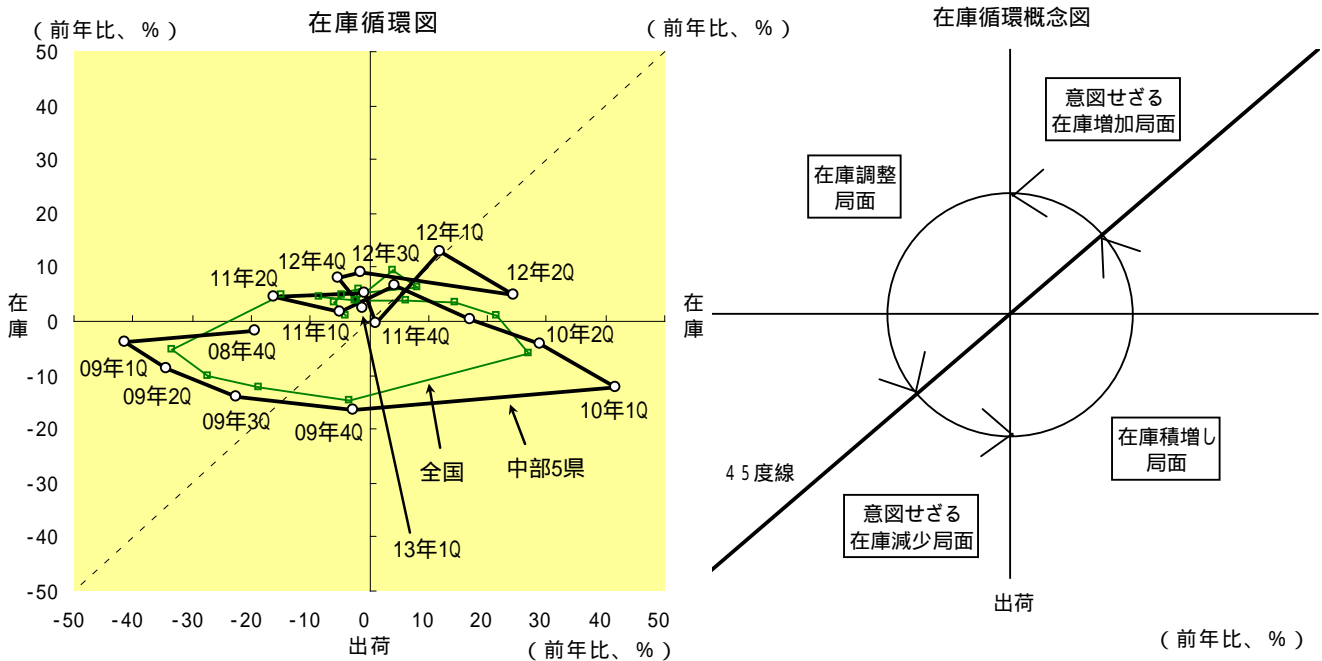
業種別にみると、スマートフォン向けの好調が続く電子部品・デバイスが前年比+23.7%と大きく上昇した。一般機械(同-0.4%)は2ヶ月ぶりに低下したが、輸送機械が同+12.0%と2ヶ月連続で上昇しており、自動車関連の鉄鋼(同+4.9%)やプラスチック製品(同+3.7%)も上昇した。



1月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は前年比 - 16.2%と12ヶ月連続で前年割れとなった。国内受注（同 - 26.8%）は8ヶ月連続で減少し、海外受注（同 - 11.4%）も3ヶ月連続で減少した。欧州向け（同 + 35.0%）が2ヶ月連続で増加したが、アジア向け（同 - 36.8%）は減少し、中国向け（同 - 11.0%）も減少に転じた。米国向け（同 - 1.6%）は小幅ながら3ヶ月連続で減少した。

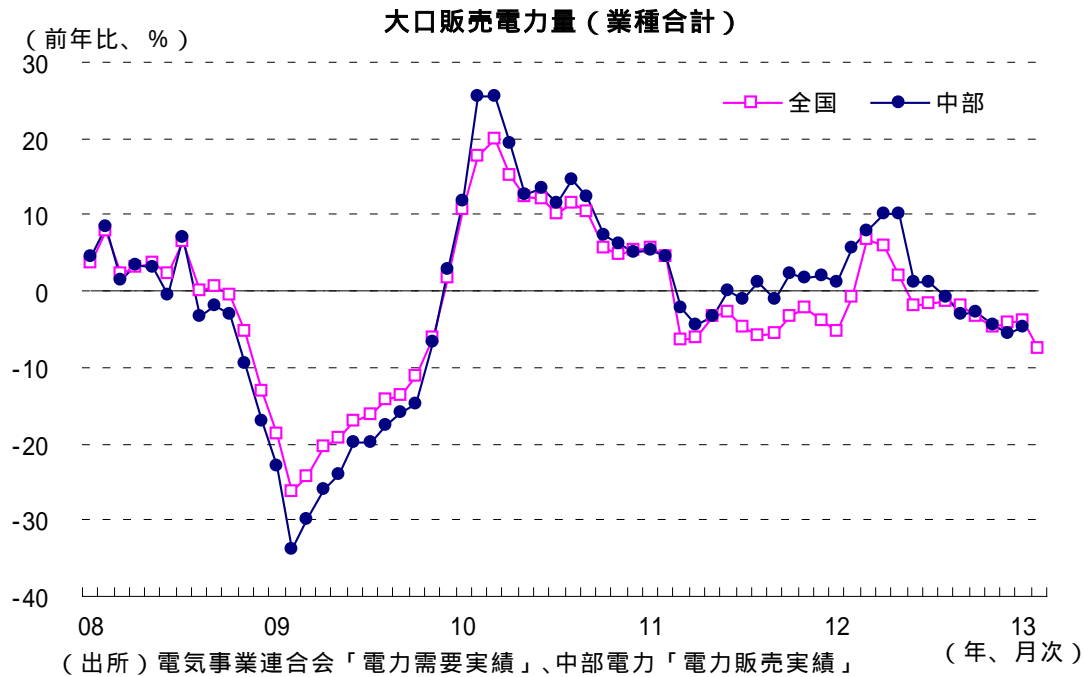


1月の中部5県の出荷は、一般機械、輸送機械などを中心に前月比 + 7.8%と増加した。在庫は、需要の弱さを背景に電子部品・デバイス、情報通信機械などで増加していたが、1月は同 - 4.9%と減少した。在庫の積み上がりが生産を抑制してきたが、水準は低下し、在庫調整圧力は薄らいでいる。



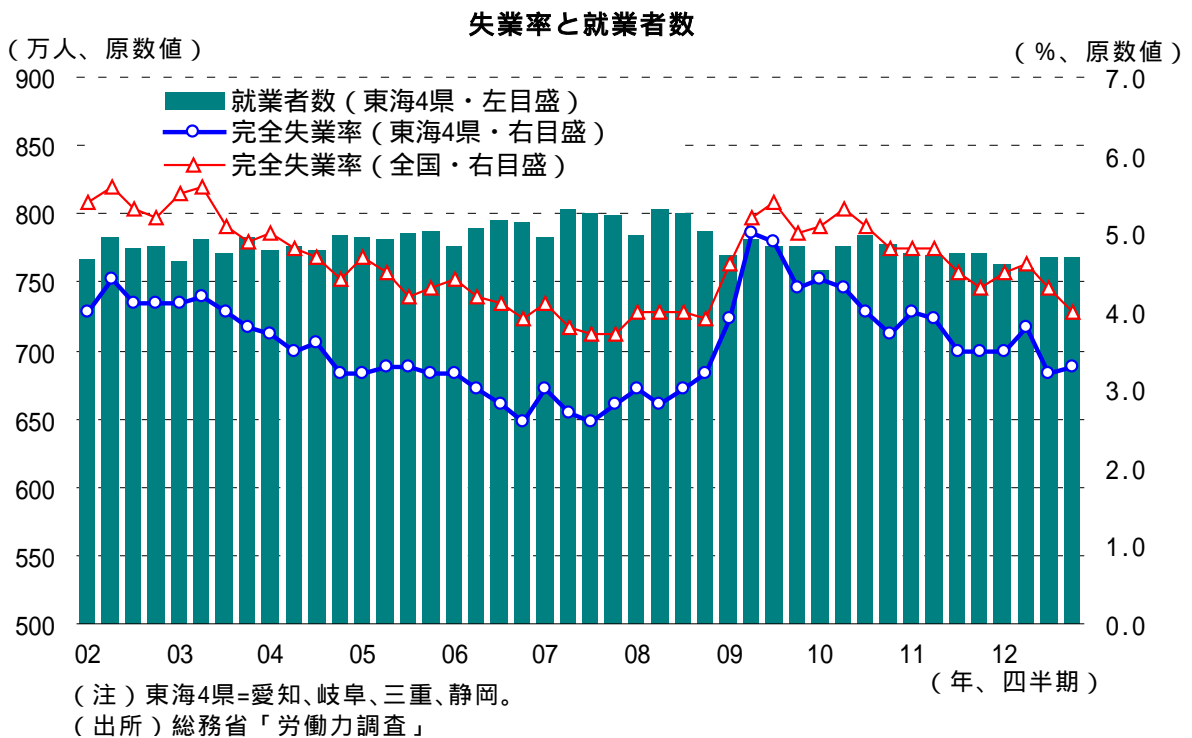
（注1）数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 （注2）中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
 （注3）直近13年1Qの出荷、在庫は1月の前年比
 （出所）経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

1月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、前年比 - 4.8%と6ヶ月連続で減少した。自動車などの機械工業向けが同 - 3.1%と5ヶ月連続で減少した影響が大きく、自動車関連向けの生産が多い鉄鋼業が前年に停めていた自家発を稼働させた影響で同 - 15.9%と6ヶ月連続で減少している。

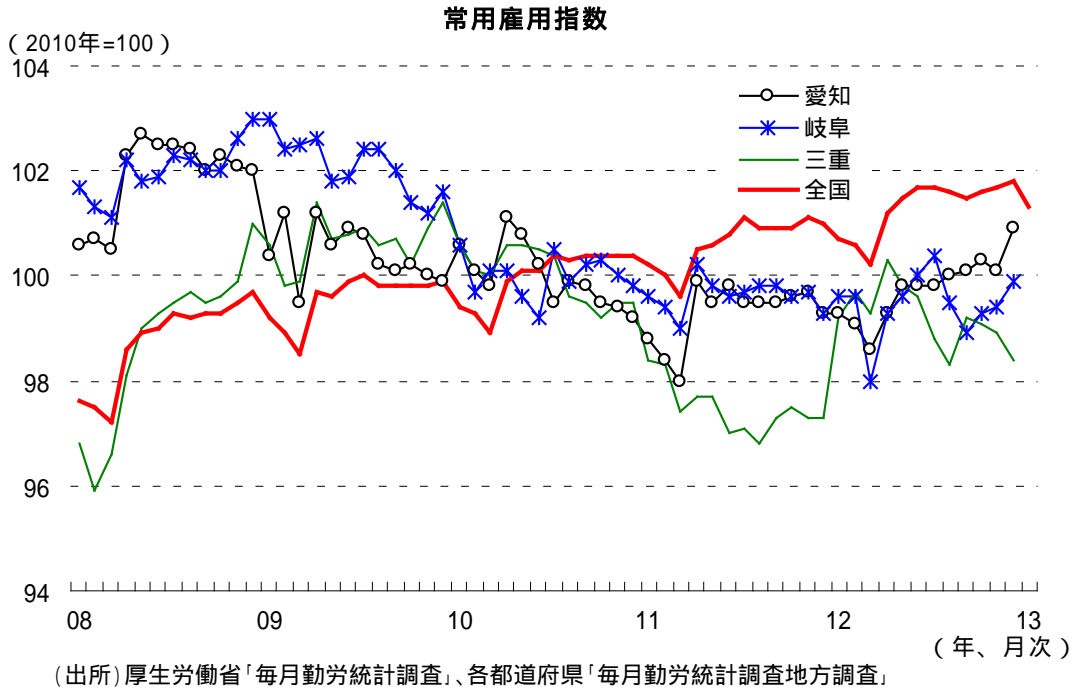


3. 雇用 ~持ち直している

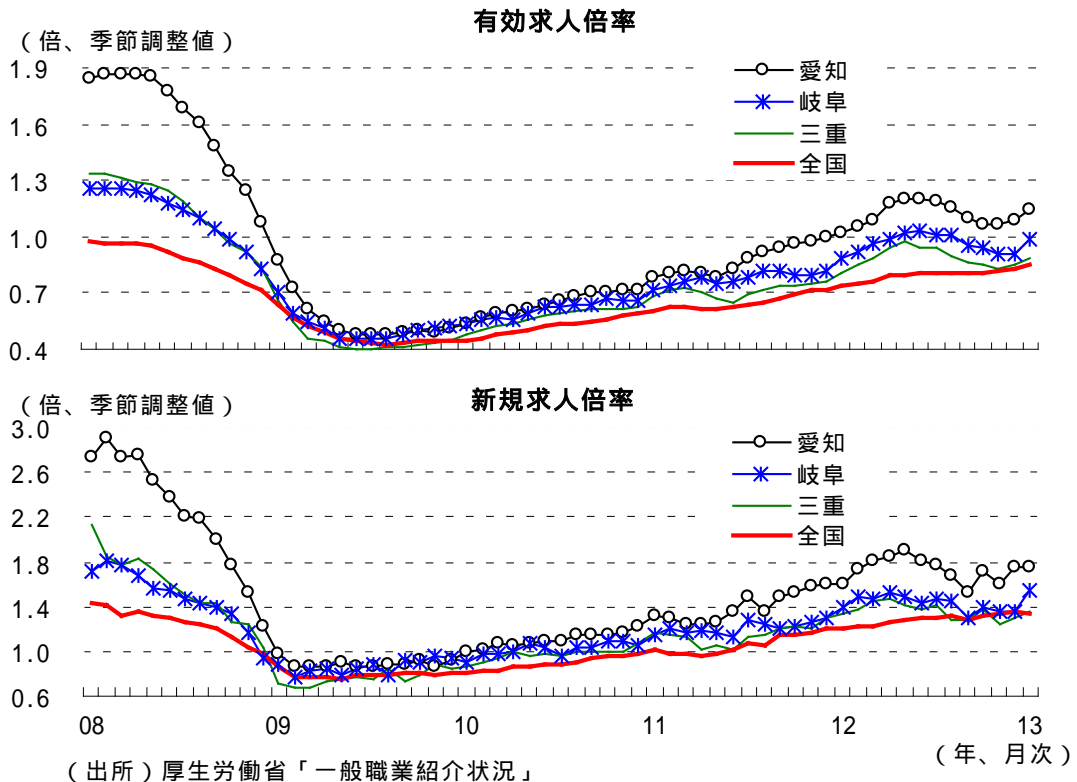
2012年10～12月期の東海4県の完全失業率は3.3%（前年差 - 0.2%ポイント）と全国（4.0%）と比べて低水準で推移している。一方、同時期の就業者数は前年差3万人の減少となっている。10～12月期の雇用環境は引き続き弱含んでいるが、自動車生産の増加に伴って12月、1月の有効求人倍率は持ち直しの動きがみられている。



東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きが続いていたが、12月の愛知県は前年比+1.6%と大幅に上昇し全国との差を急速に縮めている。岐阜県も同+0.6%と5ヶ月ぶりに上昇した。液晶や半導体などの集積の高い三重県は、同+1.1%と上昇したものの低水準にとどまっているが、自動車関連の集積の高い愛知県と岐阜県では水準を切り上げている。

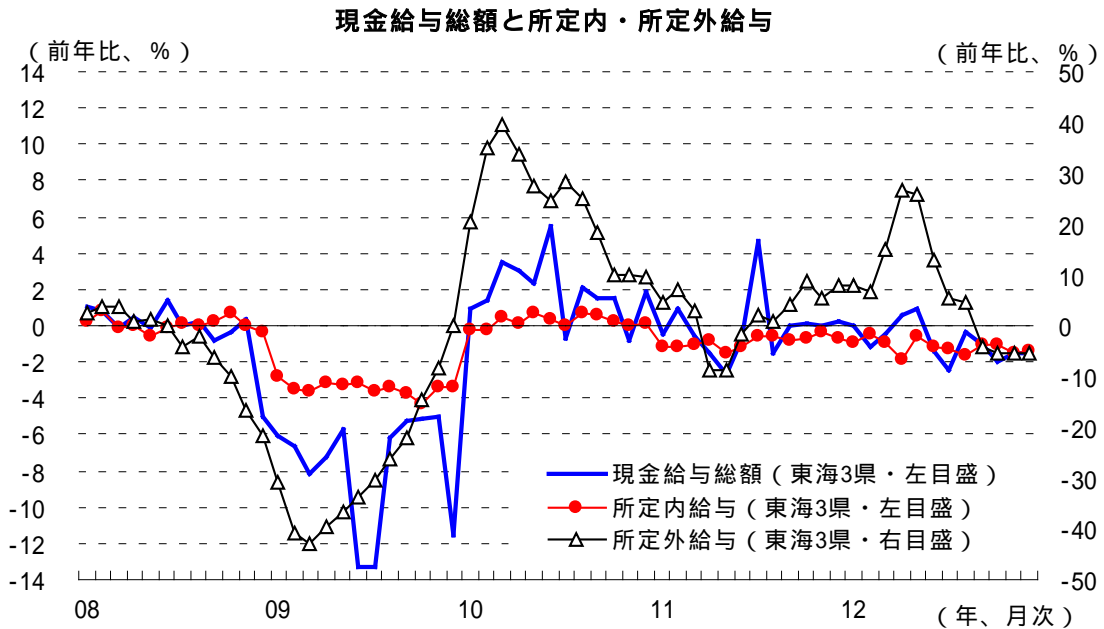


1月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県が1.14倍、三重県が0.88倍と2ヶ月連続、岐阜県は0.99倍と2ヶ月ぶりに上昇した。新規求人倍率(同)は、岐阜が1.55倍と3ヶ月ぶりに、三重が1.35倍と2ヶ月連続で上昇した。愛知は1.75倍で横ばいだったが、産業別の新規求人数では、製造業が15.2%減少し、自動車など輸送機械も47.1%の減少となるなど、頭打ち傾向もみられる。



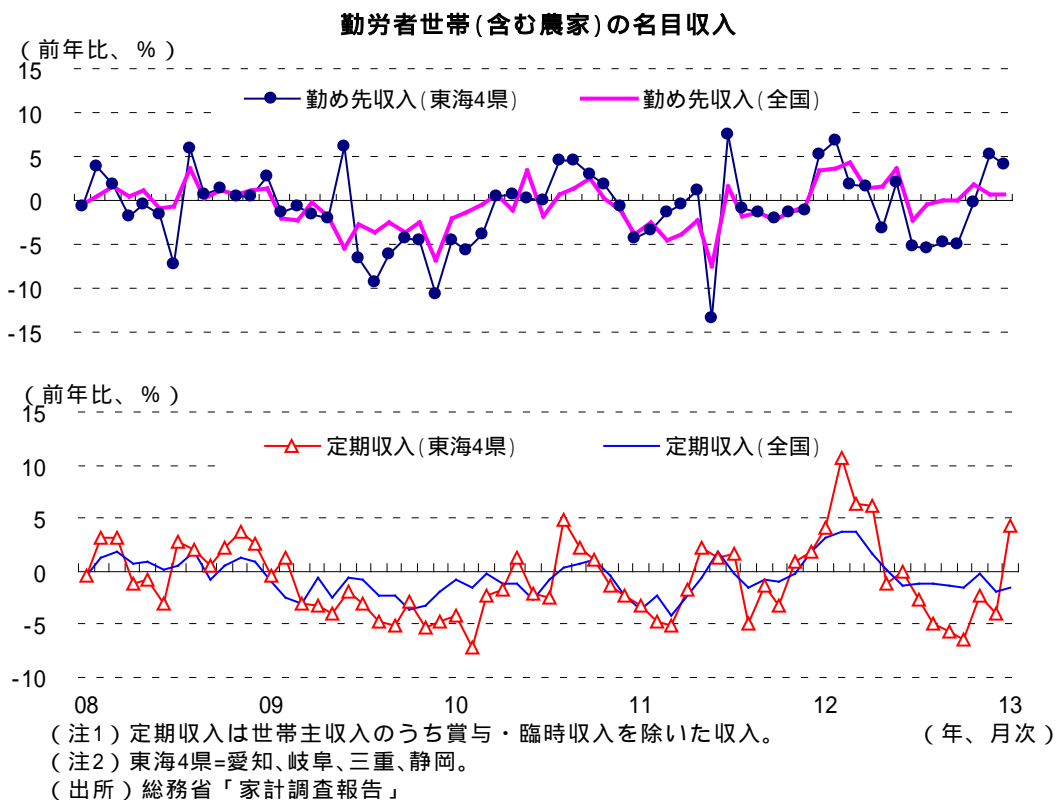
4. 賃金 ~減少している

12月の一人当たり現金給与総額は、前年比 - 1.5%と前月と同じ減少幅となった。所定内給与は同 - 1.4%と24ヶ月連続で減少し、所定外給与も同 - 5.3%と4ヶ月連続で減少している。企業の人件費抑制姿勢は根強く賃金全体では弱めの動きが続いているが、常用雇用指数は上昇しており雇用者所得は前年を上回っている。今後は、生産の持ち直しとともに所定外給与が上昇に転じるとみられる。



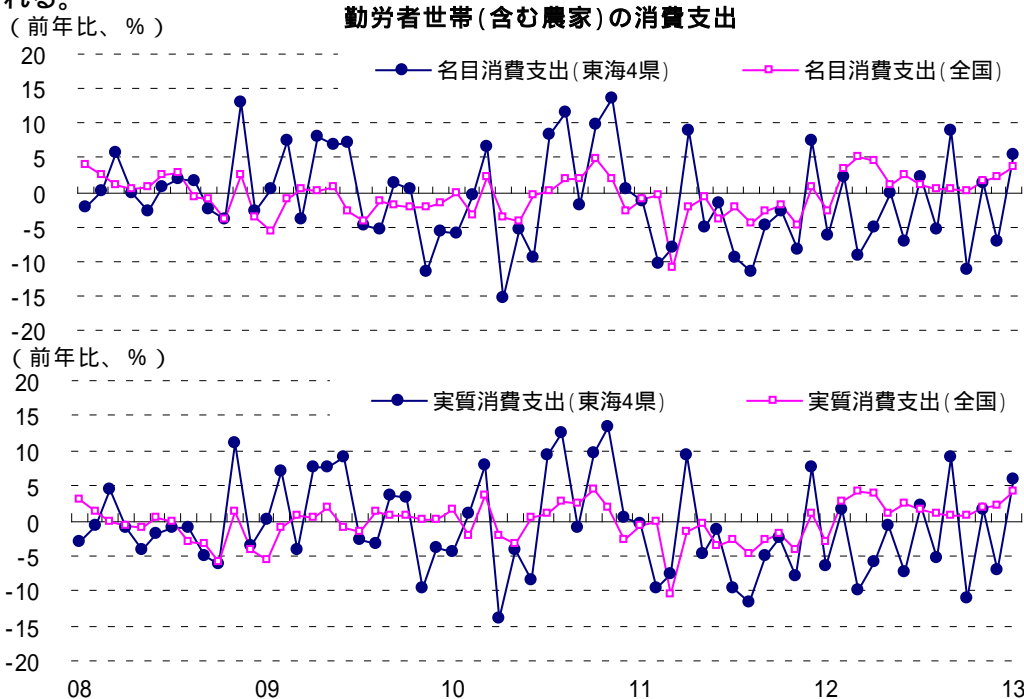
(注) 東海3県 = 愛知、岐阜、三重。
 (出所) 各都道府県「毎月勤労統計調査地方調査」

家計調査によると、1月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比 + 4.2%と2ヶ月連続で増加した。定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)も前年比 + 4.2%と9ヶ月ぶりに増加に転じた。



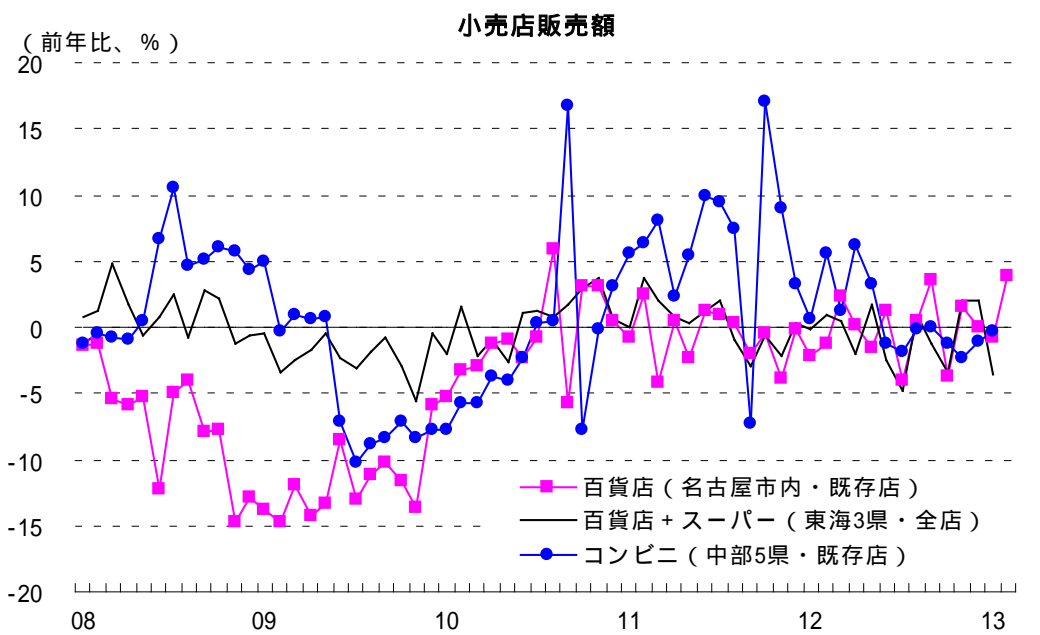
5. 個人消費 ～横ばい圏で推移

1月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は、前年比+5.5%と2ヶ月ぶりに増加した。雇用環境の持ち直しが遅れ、生産も低水準にとどまっていたため、個人消費も一進一退の動きが続いているが、2012年末以降の円安・株高による消費者マインドの改善を背景に、徐々に回復に転じると見込まれる。



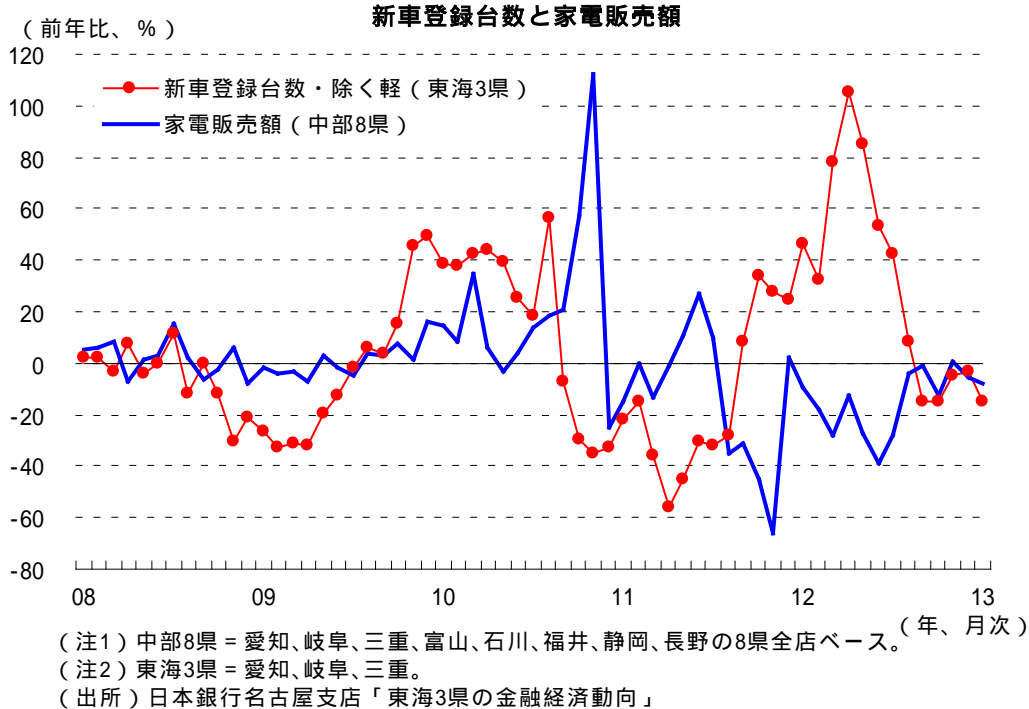
(注1) 東海の実質消費支出はMURC試算 (注2) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。(年、月次)
(出所) 総務省「家計調査報告」

2月の名古屋市内の百貨店販売額（速報値）は前年比+3.9%と2ヶ月ぶりに大幅増となった。美術品や宝飾品、時計などの高額消費が好調だったほか、化粧品やブランド品も堅調だった。1月の東海3県の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は同-3.0%と3ヶ月ぶりに減少し、中部5県のコンビニ販売額も同-0.3%と4ヶ月連続で減少した。食品や日用品への支出は依然として弱含んでいる。

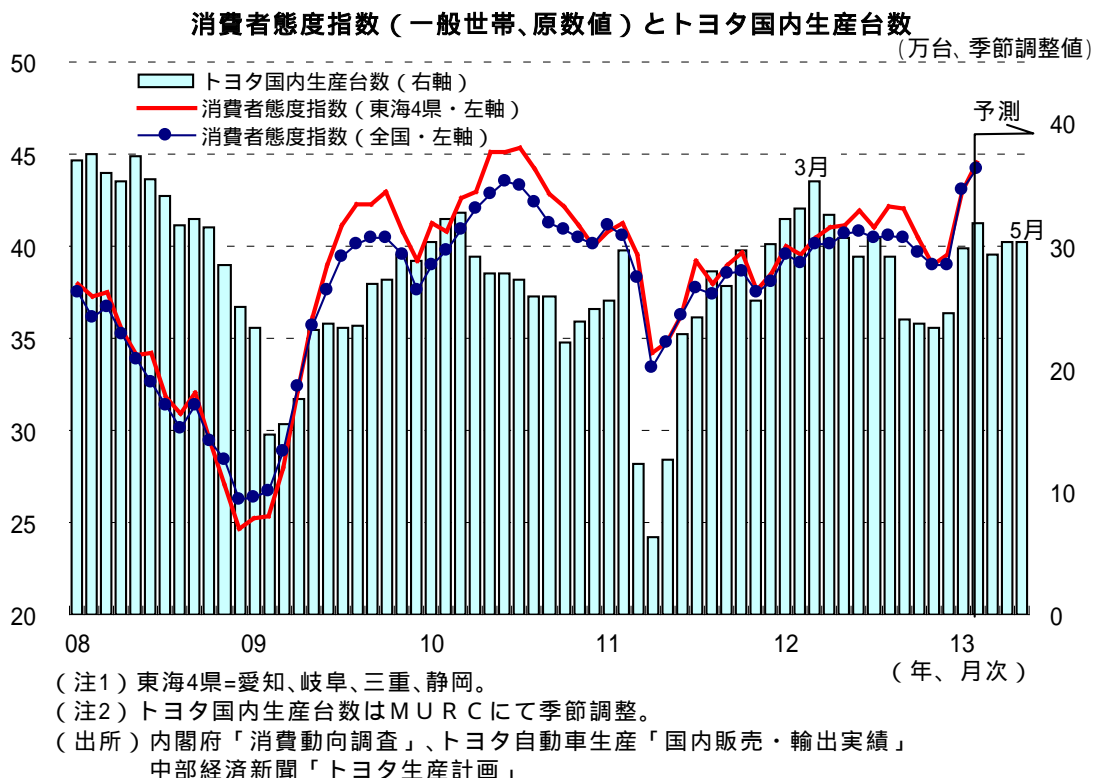


(注1) 百貨店+スーパー(東海3県)は名古屋市内の百貨店販売額を除く。(年、月次)
(注2) 中部5県=愛知、岐阜、三重、富山、石川。東海3県=愛知、岐阜、三重。
(出所) 中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」、中部百貨店協会

1月の東海3県の新車登録台数（乗用車、除く軽）は、前年比 - 14.5%と5ヶ月連続で減少した。これまでの度重なる買い替え支援策により需要を先食いした影響が出ていたが、このところの新車投入効果によりマイナス幅が予想よりも小幅となるなど底堅い動きを見せている。一方、中部8県の家電販売額はテレビの不振が長期化しており、前年比 - 7.7%と低迷が続いている。

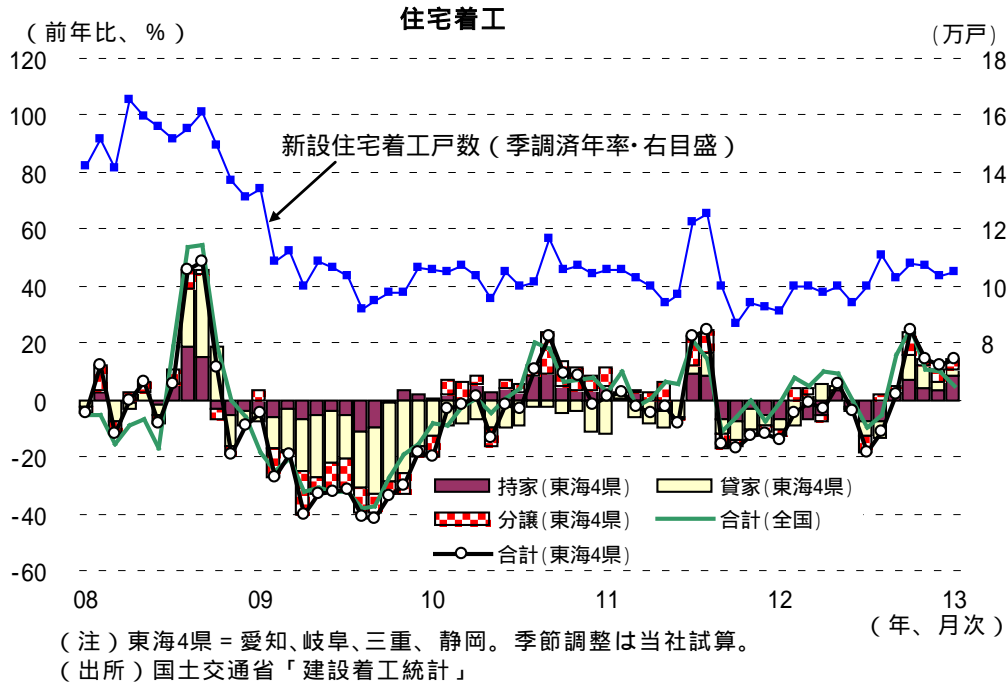


消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、2月が前月比 + 1.7ポイントと3ヶ月連続の上昇となり回復傾向が続いている。円安・株高に加え、自動車の増産に伴い東海の消費者心理は急速に改善している。トヨタの生産計画も5月まで高水準が続く見通しとなっており、今後の消費者マインドも引き続き高水準で推移する可能性が高い。



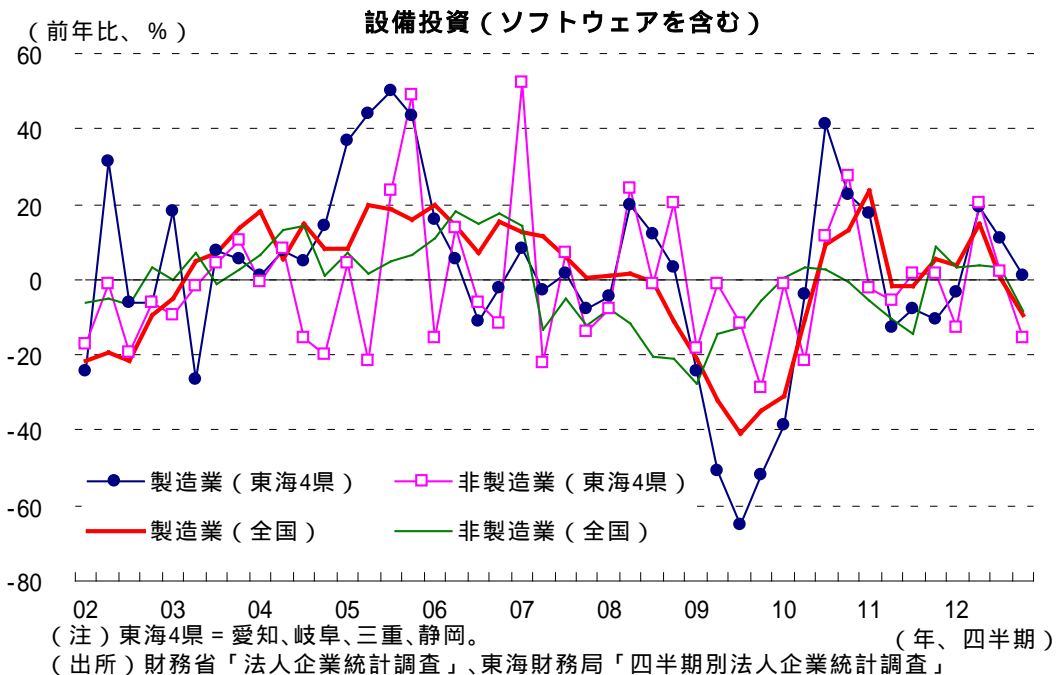
6. 住宅投資 ~ 緩やかに持ち直している

1月の東海4県の住宅着工戸数は前月比で+0.9%と3ヶ月ぶりに増加し、緩やかな持ち直し基調が続いている。前年比では+14.5%の8606戸と5ヶ月連続で増加し、利用関係別の寄与度では、持家と貸家は5ヶ月連続、分譲は6ヶ月連続でプラスに寄与した。今後も、増税前の駆け込み需要に対応したアパート・マンション建設に加え、持家の駆け込みも予想され、持ち直し傾向が続くとみられる。

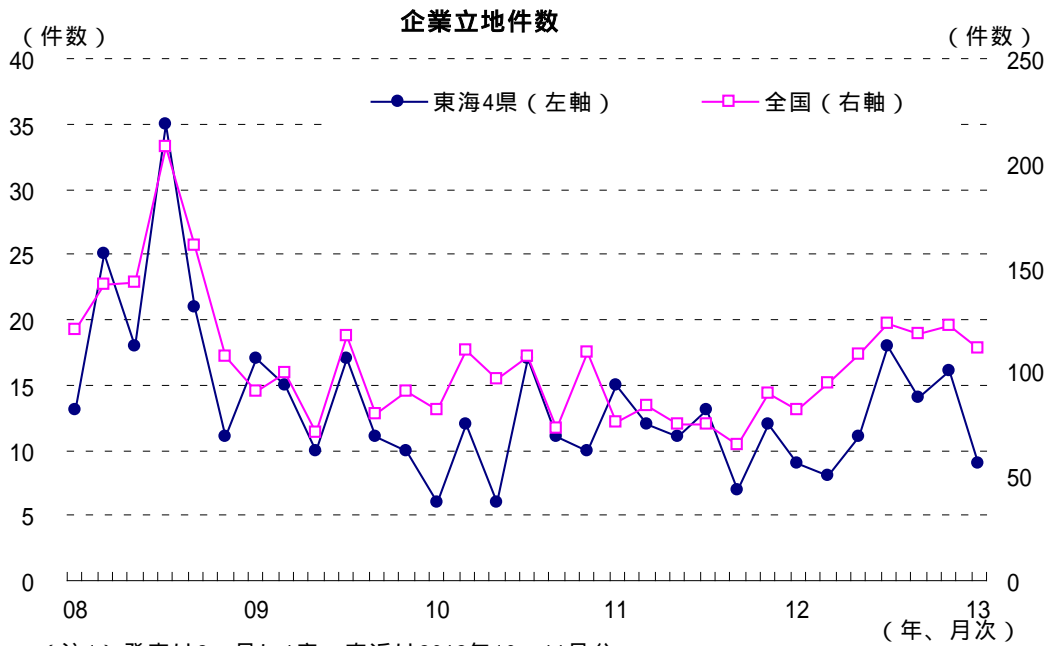


7. 設備投資 ~ 増加が一服している

2012年10~12月期の東海4県の製造業の設備投資は、前年比+0.9%と三四半期連続で増加したが、非製造業(ソフトウェアを含む)は前年比-15.6%と減少に転じた。設備投資は全国比で弱めの動きが続いていたが、製造業では上回ってきている。足元では増加が一服しているが、日銀短観12月調査で12年度の設備投資計画が製造業では+23.0%、非製造業では+15.6%となっており、今後は増加が見込まれる。



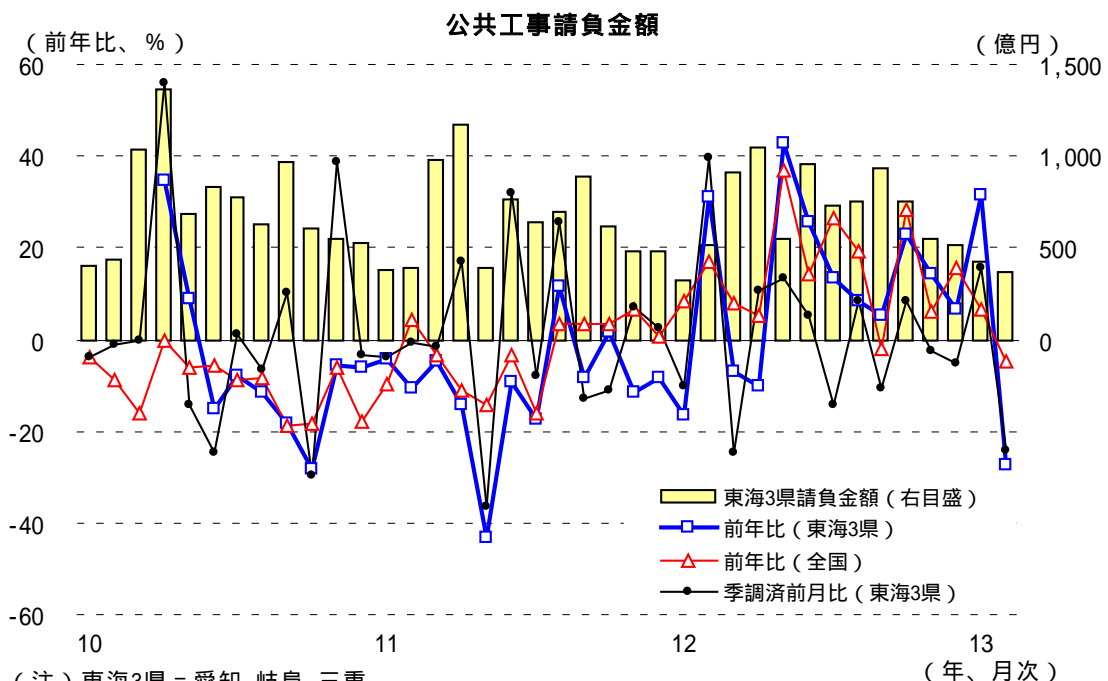
2012年12月・2013年1月の東海4県の企業立地件数は、前年同期で横ばい、前期の2012年10・11月（16件）と比べて減少した。東海では、円高定着などもあり製造業を中心に全国と比べて企業立地件数が伸び悩んだ後、2012年度後半以降徐々に増加傾向に転じてきていたが、足元では下振れている。



(注1) 発表は2ヶ月に1度。直近は2012年10・11月分。
 (注2) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。
 (出所) 日本立地センター「産業立地」

8. 公共投資 ~ 増加基調で推移

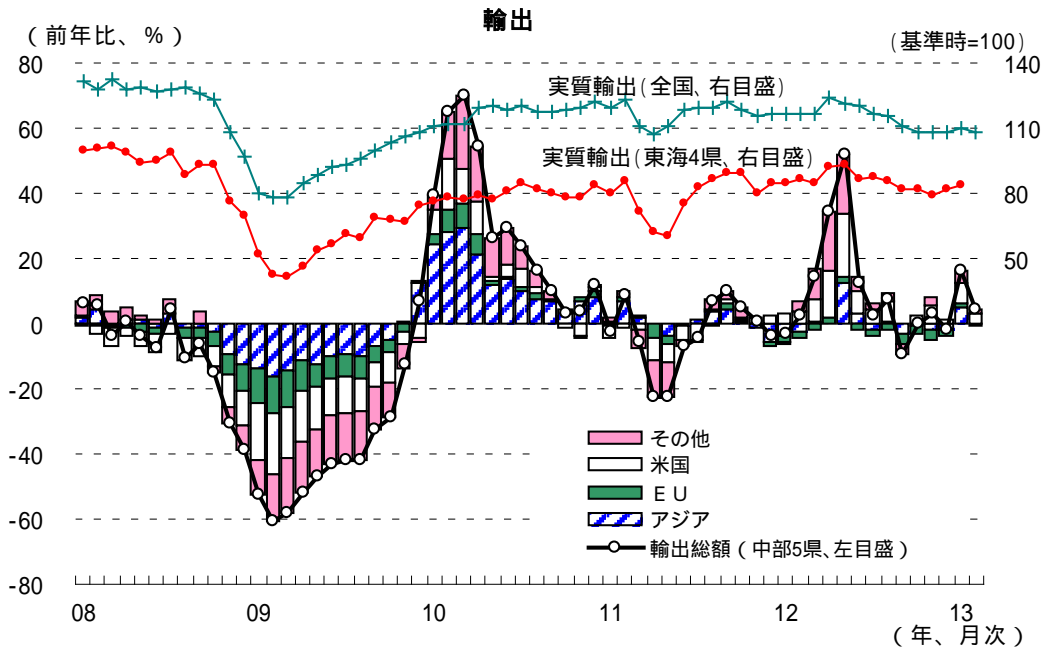
2月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 - 27.5%の370億円と減少した。発注者別では国が前年比 - 24.3%と10ヶ月ぶりに減少、地方は同 - 29.1%と5ヶ月ぶりに減少した。季調済前月比でも - 24.4%と前年の反動で一時的に減少している。東海3県では災害復旧及び防災対策工事などが下支えとなり、増加基調で推移しており、今後は、4月以降の補正予算の執行に伴う公共事業の増加が見込まれる。



(注) 東海3県 = 愛知、岐阜、三重。
 (出所) 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」、保証事業協会、北海道建設業信用保証(株) 東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

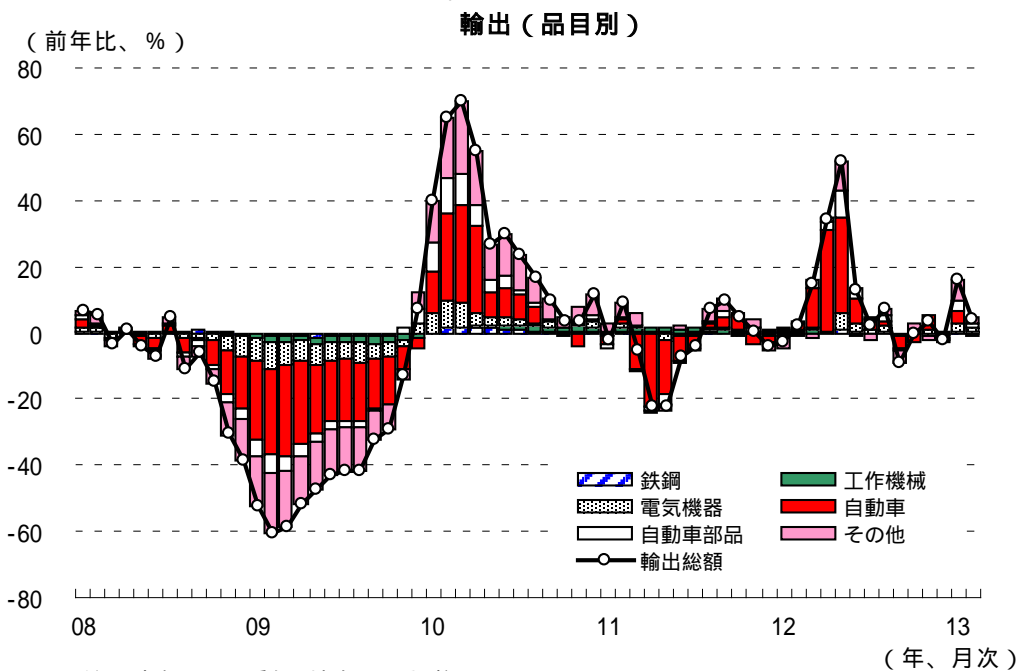
9. 輸出入 ~輸出は持ち直し、輸入は横ばい

1月の実質輸出（季調済）の水準は+1.5%と2ヶ月連続で増加した。2月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+4.1%と2ヶ月連続で増加した。地域別にみると、米国向けが同+3.1%と5ヶ月連続、アジア向けが同+0.1%と2ヶ月連続で増加した。EU向けは同-0.4%と2ヶ月ぶりに減少した。今後の輸出は、世界経済の緩やかな回復とともに持ち直し基調が続くと予想される。



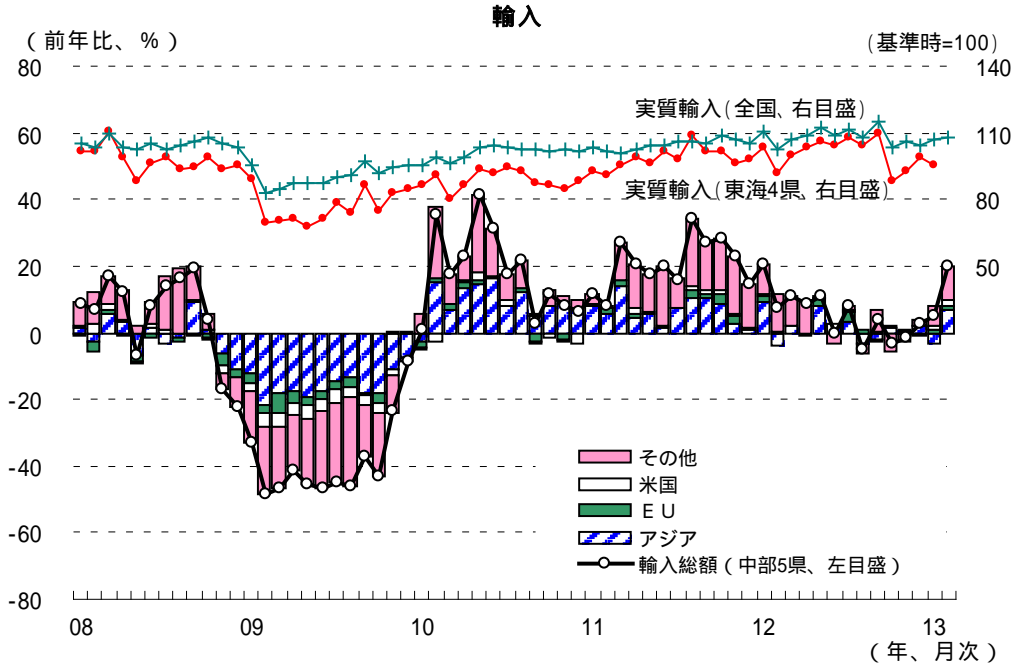
(注1) 実質輸出 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2005年。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

2月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、前年比+4.1%の伸び率のうち、自動車の寄与度が+0.1%ポイントと4ヶ月連続でプラス、自動車部品（同+1.0%ポイント）や電気機器（同+1.6%ポイント）も2ヶ月連続でプラス寄与となった。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」

1月の実質輸入（季調済）の水準は - 3.3%と3ヶ月ぶりに低下した。10月の地球温暖化対策税の導入前の駆け込み輸入の反動により水準が低下していたが横ばい圏の動きになってきた。2月の名古屋税関管内の輸入額は前年比 + 20.0%と3ヶ月連続で増加した。アジアが同 + 6.7%ポイントと2ヶ月ぶりのプラス寄与となった。今後も円安や資源相場の影響はあるが横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



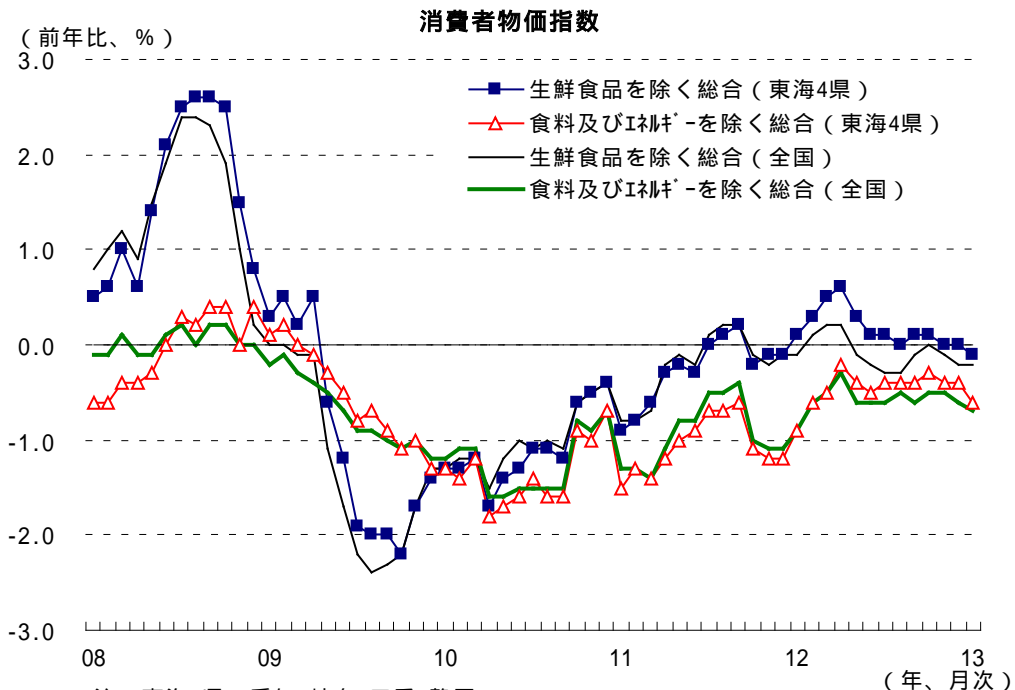
(注1) 実質輸入 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2005年。

(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

10. 物価 ~ 消費者物価は横ばい

1月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合では、電気・ガス料金などが上昇したものの、家電製品や日用品などの下落により、全体では前年比 - 0.1%と低下した。食料・エネルギーを除く総合では同 - 0.6%と下落幅が大きくなった。今後は、円安に伴う輸入物価の上昇に加え、小麦や電気・ガス料金の値上げなど、4月以降物価上昇要因が増えるため、緩やかな上昇が見込まれる。

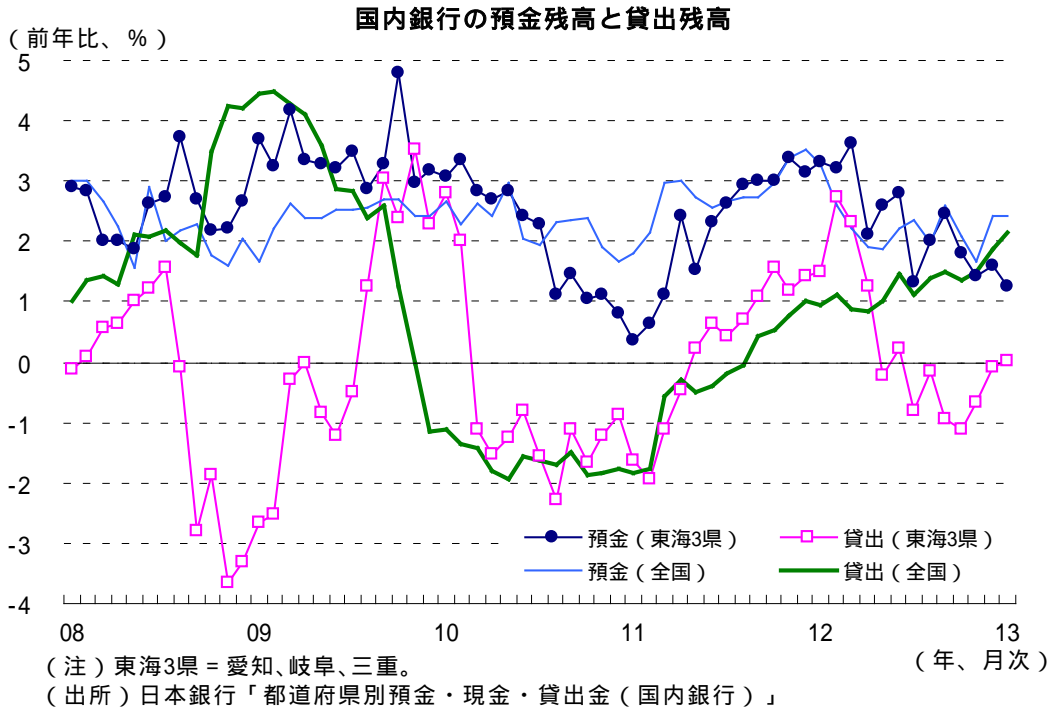


(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。

(出所) 総務省「消費者物価指数」

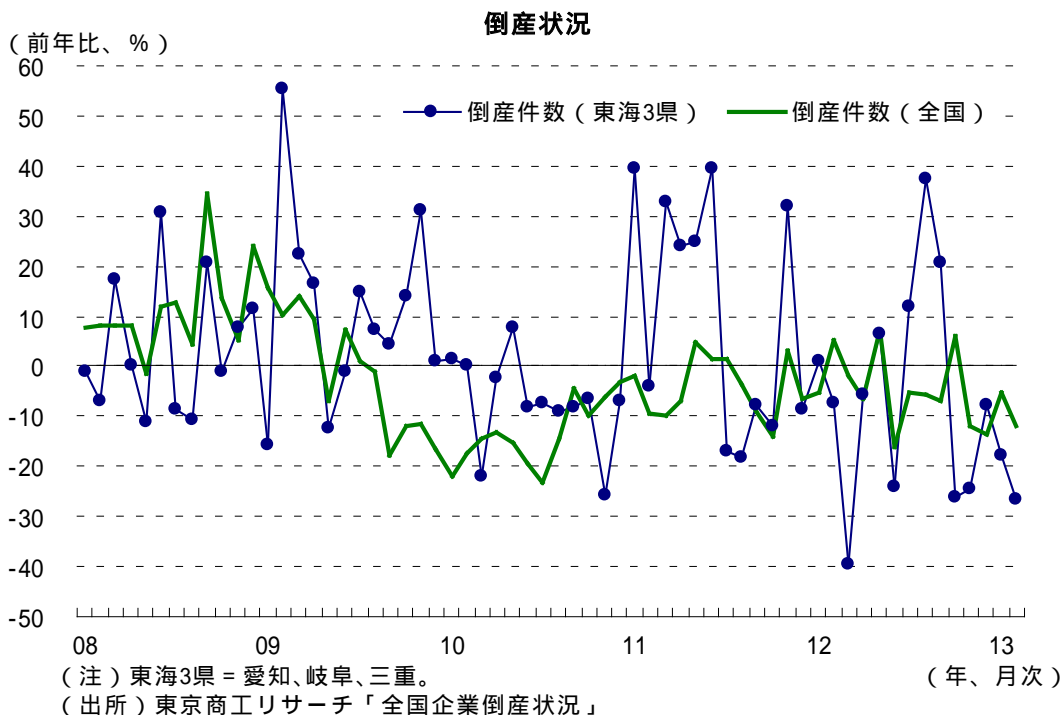
11. 金融 ~ 預金は増加、貸出は横ばい

1月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は、企業が手元資金を取り崩しているものの、個人預金が堅調に推移し、前年比+1.3%と増加した。一方、貸出残高（国内銀行ベース）は同+0.0%と小幅ながら増加に転じた。今後は、自動車の増産に伴って企業の運転資金需要が高まるため、貸出残高が増加基調で推移する可能性が高い。



12. 倒産 ~ 倒産件数は減少、負債総額は増加

2月の東海3県の倒産件数は、愛知（前年比 - 15.4%）、岐阜（同 - 42.9%）、三重（同 - 72.7%）で減少した。東海3県全体では前年比 - 26.7%の66件と5ヶ月連続で前年を下回った。負債総額は302億円と前年の3.5倍となった。民事再生法の適用を申請した愛知県農林公社の負債額227億円が響いており、これを除くと東海3県の負債総額は前年比 - 13.1%となる。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		↗	輸出	全国	→		↗
	東海	↗		↗		東海	↗		↗
	関西	→		↗		関西	→		→
個人消費	全国	→		→	輸入	全国	→		→
	東海	→		→		東海	→		→
	関西	→		→		関西	→		→
住宅投資	全国	→		→	生産	全国	↗		↗
	東海	↗		↗		東海	↗		↗
	関西	→		→		関西	↗		↗
設備投資	全国	↘		↗	雇用	全国	→		→
	東海	→		↗		東海	↗		↗
	関西	→		→		関西	→		↗
公共投資	全国	↗		↗	賃金	全国	↘		→
	東海	↗		↗		東海	↘		→
	関西	↗		↗		関西	↘		→

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は3月4日時点の予報。

【各項目のヘッドライン】

項目		2月のコメント	3月のコメント
1. 景気全般	全国	下げ止まっている	持ち直しの動きがみられる
	東海	持ち直しの動き	持ち直している
	関西	横ばい圏で推移	持ち直しの動きがみられる
2. 生産	全国	持ち直しつつある	持ち直している
	東海	持ち直しつつある	増加している
	関西	横ばい圏で推移	持ち直しつつある
3. 雇用	全国	持ち直しが一服	持ち直しの動きがみられる
	東海	持ち直しつつある	持ち直している
	関西	横ばい圏で推移	持ち直しの動きがみられる
4. 賃金	全国	弱含んでいる	弱含んでいる
	東海	減少している	減少している
	関西	弱含んでいる	弱含んでいる
5. 個人消費	全国	横ばい	横ばい
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
6. 住宅投資	全国	横ばい	横ばい
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
7. 設備投資	全国	弱含んでいる	弱含んでいる
	東海	増加しつつある	増加が一服している
	関西	持ち直しの動きが鈍っている	持ち直しの動きが鈍っている
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加している	増加基調で推移
	関西	増加している	増加基調で推移
9. 輸出入	全国	輸出は下げ止まりの動きがみられる、輸入は横ばい	輸出は下げ止まっている、輸入は横ばい
	東海	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい
	関西	輸出は持ち直しの兆し、輸入は横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
10. 物価	全国	国内企業物価は緩やかに下落、消費者物価は横ばい	国内企業物価、消費者物価とも横ばい
	東海	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい
	関西	消費者物価は小幅下落	消費者物価は小幅下落
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金は増加、貸出は横ばい	預金は増加、貸出は横ばい
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに減少

(注) シャドウ部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

（注）

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 1 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 1 また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 1 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 1 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 1 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。